

学校教育 目標	夢と希望をもち、21世紀を生き抜く児童生徒の育成
育成を目指す 資質・能力	「創造」探究力 「自主」自己肯定感・自己有用感 「協働」他者と関わる力

	学力状況について 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 前期課程では、6年生は各教科で領域別正答率、観点別正答率ともに全国平均を上回ったが、5年生は県平均、全校平均ともに下回った結果となった。どの教科でも記述で答える問題に課題が見られた。 後期課程では、各教科において、領域別正答率、観点別正答率ともに県平均、または全国平均を上回った結果となった。その中で、資料を読み取ることが苦手な傾向が社会から見受けられた。国語でも文章の構成や展開について根拠を明確にして考える問題に課題が見られた。英語では、話す場面では返答ができるが、書くことになると正答率が下がる課題が見られた。
児童 生徒の 課題	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○単元末テスト・定期テストにおいて、前期課程は60点以下を7%以下、後期課程は30点以下を13%以下にするという指標を掲げ、低学力層の引き上げに取り組んできたが、まだ全学年達成とはいかない。(平均値は前期課程8%、後期課程10.6%) ○家庭学習時間が十分な児童・生徒と不十分な児童・生徒とで二極化している。 ○めあてをもって授業に臨んでいる。
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・「導入」「展開」「終末」の学習過程における「展開」を中心に「生徒指導の3機能」を生かした授業実践 ・児童生徒が主体的に取り組める「めあて」や「課題」の設定になっているかを視点とした互見授業 ・ペア学習、班学習を多く取り入れ、主体的に授業に参加している意識をもたせるとともに、伝え合うことを大事にした授業実践 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・昼休みや放課後の時間を活用した補充学習 ・思考力や表現力、読解力の向上が図れるような週末課題や家庭学習指導

学力に関する達成指標
単元末テストや定期テストにおいて前期課程は60点以下を7%以下、後期課程は30点以下を13%以下にする。

	【授業改善】 〈授業改善のテーマ・重点〉 (授業改善テーマ) 主体的に学び、思いを伝え、進んで問題解決ができる子どもの育成 (授業改善の重点) ・「分かる」を支える手立て × 「深める・繋がる」振り返り	【家庭・地域との協働】
	〈取組内容〉 授業改善の取組 ○教科の特性を生かした「分かる手立て」の共有 ○振り返りの視点や手立ての共有 ○互見授業の実施 ○授業の5原則の徹底	〈家庭・地域の取組内容〉 ○家庭での対話・声かけ ○読み聞かせ ○学習支援(昔の遊び・生活の体験、校区探検の見守り、米作りなど)
今後の 具体的 な取組	〈取組指標〉 ○プレート(本時の目標・課題・今日の流れ・まとめ・振り返り)を活用した授業展開100% ○毎時間、授業5原則に基づく学習指導の実施(2分前着席、私語なく集中、しっかり聞く、はっきり話す、自ら学ぶ) ○互見授業実施計画に沿った互見授業の実施年1回	〈家庭・地域の取組指標〉 ○読み聞かせを学期に1回 ○学習支援を学期に2回
	〈検証指標〉 ○「授業が分かりやすい」児童生徒の肯定的評価90%以上 ○「授業のめあてや課題を意識して、授業を受けている」児童生徒の肯定的評価90%以上 ○「授業の振り返りは次の学習の意欲に繋がるか」児童生徒の肯定的評価90%以上	〈家庭・地域の検証指標〉
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○補充学習の実施・個に応じた指導・習熟度別の宿題(低学力層の底上げ) ○読書指導	